

## はじめに

地球が創られて50億年経ちました。人類がその地球上に現れて500万年。そして私たち新人（クロマニヨン人）といわれる人間がでて2万年余。では最初の人類と我々新人とはどう違うのでしょうか。そこが「人間力」という括りくくりで考えたらいいということでしょうか。

一章で掘り下げますが、「人間力」という概念は大変難しいものです。しかし、人間が動物から分かれて人間の生き方をするとき、根底にあったのはこの「人間力」でした。「人間力」とは平たく言えば人間性すなわち人間が人間らしく、人間として恥ずかしくないように生きるといふことなんです。

その中心は感情とか感性でしょう。もっと言いますと、感覚センスとでもいいでしょうか。人間としてやってはいけないことはやらず、人間としてやるべきことをやるということ。しかし人間という存在は、いつも揺れ動いています。何が動くかと言いますと、事の判断基準が動くのです。すなわち心の問題なのです。

心と言いましても心臓ではなく、脳の働きです。と言いますのは、近世の初めまではモノを考える人体の器官は心臓であって脳ではないと考えられていました。ですから「心が動く」とか「心のあるやつだ」とか「心ない人」というような表現が数多くあります。精神を左右するのは心臓と考えられていたのです。

それは古代エジプトに遡さかのぼります。古代エジプトでは良いことを考えるのも、悪いことを考えるのも心臓と考えられていました。死んだ人がいい人だったか悪い人だったか判定する『最後の審判』では「天秤てんびんの儀式」が行われ、死者の心臓と真実の女神マアトの印である羽を天秤にかけて調べ、心臓が重ければその死者は悪人として地獄へ落ちるという考えです。私たちは悪い人のことを「腹黒い」と言いますが、古代エジプトでは「心臓重い」人と言うのです。

そうしたことを全般を私たちは宗教と言います。宗教とは教えを宗とするわけですが、何の教えかと言いますと、「死を怖がらない教え」なのです。人間はどの時代どの地域でも死を恐れます。何が怖いかと言いますと、生きている今が断絶して（死を迎えて）一体それからどうなるのかが分らない。分らないことが不安を生み、不安が恐怖を作るといふ構図です。よって人間は考えることで生き、生きていることで考えるものです。

から、恐怖のスパイラルに陥ってしまふのです。それを救うのが本来の宗教なのです。現在、宗教というものの概念が広がってしまい、救いと称して商行為に走っているものが数多くあり、その被害者もとても多いのです。よって救いとは、死を怖いものではないと教えることにあるという一点で考えれば、詐欺には騙されず<sup>だま</sup>に済むのですが、人間には欲というのが心（脳）の奥底に潜んでいて、ついつい騙されてしまふのです。よって本当の宗教とはその人の生き方を教示するだけのもので、対価を求めないのが通常の宗教活動なのです。

ですから宗教とはこの世、そして死後の生き方の道理であるとか原理を指し示すことなのです。この「理」という漢字は、「岩の割れ目」のことを表していて、いわゆる「筋」です。筋が通るとか通らないという使い方が正しいわけです。

古代エジプト人は、この世で死んでもあの世で生き返ればいいと考え、あの世を発明したのです。おそらく「あの世」は、人類にとって、歴史上、最高の発明だと思っております。そしてあの世の住人を「神」と名付け、自然の活動を全てその神の活動としたのです。ですから現代人のように自然災害を「災害」としてではなく、人間への警告とか戒めと考え、災害を含めて神の意思を示した活動としたのです。そこで、人間は神に懲ら

しめられないために日々の生活を正しくしなければならぬと考えたのです。

よって、人間が人間らしく生きるということは何だというのが示されたのです。しかし、今の日本人や世界の人々はどう見ても正しい人間として生きていないと思うのです。そんな気がしてなりません。ですから、私は勝手ながらこの『人間力回復宣言』を著したわけです。

この後、六章にわたってどうして人間力を持たなければならぬかを歴史的にひもといていきますので、最後まで読んでください。

人間力回復宣言 目次

はじめに 1

第一章 人間力とは

1 人間力とは 14

2 罪の意識 18

3 人間力の分析 21

4 宮澤賢治の人間力の考え方 29

5 古代から学ぶ人間力 32

第二章 『論語』における人間力の考え方

1 儒学とは 40

2 「仁」とは 41

- 3 「学び」とは 44
- 4 孔子さま 46
- 5 「儒家」とは 48
- 6 子路の質問 51
- 7 学問の楽しさ 52
- 8 「仁」の本当の意味 58
- 9 「義」について 59
- 10 孔子さまの人の育て方 62
- 11 『詩経』における学び方について 64
- 12 儒学者とは 66
- 13 逆は必ずしも真ならず 67
- 14 ジハード（イスラム教の聖なる闘い）とは 69
- 15 孔子さまに褒められなかった人 71
- 16 孔子さまの人物論 73
- 17 究極の学問 80

### 第三章 古代エジプト人の人間力の考え方

- 1 古代エジプト人の考え方 86
- 2 『死者の書』とは 87
- 3 天秤の儀式 91
- 4 ピラミッド・テキスト 93
- 5 古代エジプトの文学 95
- 6 知恵があるとは 96
- 7 教訓文学 98
- 8 知識に傲慢であるな 99
- 9 上司との論争 100
- 10 同僚との論争 102
- 11 トップの戒め 105
- 12 策謀について 109
- 13 会話のマナー 111
- 14 使者の役割 113

- 15 口は慎め 116
- 16 他人を騙すこと 118
- 17 子供への教訓 119
- 18 部下の心得 123
- 19 モノを頼まれる時の心得 125
- 20 古代エジプトの女性について 127
- 21 「貪欲」について 130
- 第四章 母・米子の人間力の考え方
- 1 母・米子とは 134
- 2 鬼は人の心の中にあるのです 136
- 3 何事もていねいに、ていねいにするのよ 139
- 4 杓子定規に考えてはだめ 141
- 5 次よ、次を見なさい 143
- 6 神様は見ている 145

- 7 聞き学問は大切 148
- 8 千里の道も一歩から 150
- 9 元気でぼっくり 152
- 10 嫌な事から始めなさい 154
- 11 人間食べられるうちが花 156
- 12 嘘つきは泥棒のはじまり 158
- 13 生活感のない人はだめ 160
- 14 他人が嫌がることをやるのよ 162
- 15 長短なく 164
- 16 目上を敬う 166
- 17 後出しはだめよ 169
- 18 人生、歩が大切なのよ 171
- 19 まず「ハイ」と言いなさい 173
- 20 初々しさがなくなってきたらおしまいよ 175
- 21 前へ前へと 177

## 第五章 負の人間力

- |    |                |     |
|----|----------------|-----|
| 22 | 開けたドアは閉める      | 180 |
| 23 | 欲ばりはだめよ        | 182 |
| 24 | えぼっちやだめよ       | 185 |
| 25 | おっくうがっちやだめよ    | 187 |
| 26 | いじけちやだめよ       | 189 |
| 1  | 負の人間力とは        | 194 |
| 2  | 負の人間力の重度       | 195 |
| 3  | 消極的な負の人間力      | 204 |
| 4  | 集団としての負の人間力    | 206 |
| 5  | 人間力の欠如         | 207 |
| 6  | 儒学と人間力         | 210 |
| 7  | 日本人の人間力        | 211 |
| 8  | 似非民主主義がもたらしたもの | 213 |

第六章 人間力回復宣言

- 1 人間力を持つ条件 218
- 2 人間力を科学する 221
- 3 人間力の分類法 222
- 4 人は人 223
- 5 人間力発揮の仕組み 224
- 6 ピラミッド建設の人間力発揮 227
- 7 人間力回復宣言 229
- 8 私の人間力回復の秘策 231

むすび 240

おわりに 246

第  
一  
章

---

人  
間  
力  
と  
は

## 1 人間力とは

「人間力」という言葉は、深く考えるところでも難しい言葉です。「人間」という言葉だけを考えると何となく分かりますが、その本当の意味は分からないのです。しかも自分のことを考えても「人間」の概念は分かるのですが、それに「力（りよく、ちから）」をつけるに分からなくなってしまうです。

素直に「力」を「ちから」と考えるならば、50キロのものを持ち上げるとか故障した車を引っ張ったり押し下したりする力のことといえますが、そんなことを指しているのではないことは誰でも分かるでしょう。

しかし、ちよつと考えてみますと、「人間力」というのは「人間が人間らしくしようと考える行動する」ということであることが分かります。しかし、「人間らしく」というのが少し難しいかもしれません。

人間には良い面も悪い面もあります。両方とも人間らしいのです。しかし、悪い面をわざわざ言うわけありませんから、良い面を言っていることは自明の理です。よって、「人間力」とは「良い人柄を示す人間性を発揮する力」と言っているでしょう。すなわ

ち、「人間力」とは「人間性、しかもいい方の人間性のことを言う」ということが言えるのです。

さて、「人間力」を考える前に「人間」について考えてみましょう。「人間」とは辞書を引くと、「地球上で最も知能の発達した動物で、二足歩行をし、手を自由に動かし、火を作ることが出来、言葉を話す存在を言う」というのが第一義で出ています。

すなわち、人間とは、鉱物（地球に存在する無機物）とは違い、また、動物と植物（有機物）とも違う存在であるということです。無機物とは生活機能を持たないもので、炭素を含まない水、空気、土、鉱物のことをいい、有機物とは生活機能を持つもので、有機化合物、炭素を主な成分とする化合物（動植物の身体）のことを指します。人間は人間としてそれらとは全く違う存在である意識を持つべきなんです。

人間は漢音では「じんかん」と発音します。仏教用語では「世間、この世、俗世」のことを表し、この中には三善界すなわち阿修羅界、人間界、天上界があり、同時に三悪界つまり地獄界、餓鬼界、畜生界があります。こうした人間のことを研究する学問を人間科学といいます。人間学と言ってもいいですが、人間に関わる諸事象を探究する科学で、言語学、人類学、精神医学、精神分析心理学、社会学、脳神経生理学など、自然科

学的手法を用いて人間に関わることを分析する学問です。

ヒューム(デビッド・ヒューム)。18世紀のイギリスの哲学者・歴史家、政治および経済思想家。著書に『人性論』などがある)は道徳哲学、サン||シモン(アンリ・ド・サン||シモン。18世紀後半から19世紀前半のフランスの社会主義者。後世のほとんどの社会主義思想の礎となる思想を生みだした)は、生理学と心理学を基礎に人間精神の進歩発展(発達)の歴史を探究しました。そして、人間観としては、理性を持つ超越的な精神的存在で、対象としての人間と探究する主体としての人間の矛盾を研究するものです。さて、「人間力」について考えてみますと、「人間として好ましい能力を備えたもの」ということになりましたが、人として誰に対して好ましいのかと申しますと、自分以外の対象全てに対してです。ですから、たとえ鉱物、水、空気、土、ひいては地球といった無機物に対しても、です。無機物というのは生活機能を持っていない、すなわち心や感情がないものということですから、どんなに人間性を発揮してもその対象物からは何の反応ももらえないということになります。でもいいんです。そういった対象物にも心を向ける必要があるのです。

それに対し、植物や動物、そして人のように、生活機能を持ったものからは反応がも

らえるのです。植物や動物は何をしてやっても感謝されないと言う人がいますが、そんなことはなく、全て私たちの活動に必ず多かれ少なかれ反応はあります。その例として山登りの途中で、高山植物を採取してはならないということがあります。もちろん、高山植物は抵抗もしませんし、採取した人に直接、罰を与えることはしませんが、潜在的な罪の意識から、その後の人生で何か影響を受けると思うのです。

その他にもペットと会話する人とか、野生の動物に対しても声を掛ける人がいるとか、花に対しても音楽を聞かせるとか、いろいろな形で動植物とコミュニケーションをとっている人は少なくありません。すなわち、生活機能を持つ存在とは交流できるということです。ましてや、人と人ではたとえ国が違おうとしても、その交流は強いものと思いません。

しかし、心の交流を含めて人間対人間の問題は深いものがあります。人を殺すとか戦争とかという極限の条件でなくとも、人と人の関係は難しいのです。生まれただばかりの赤ん坊は無心というか、無垢むくです。しかし、人は年をとると荒波にもまれて徐々に悪に染まっていきます。すなわち、心の中に悪の贅肉ぜいにくがたまるわけです。「心のメタボ」といっても過言ではありません。それは犯罪性の高いものから、ただ単に他人の心を傷つ

けて終わりというもので様々です。

例えば復讐ふくしゅうのための殺人から、他人へのいわれのない誹謗中傷ひぼうちゆうけう、他人を騙す、他人の物を盗むといったものまで幅が広いわけです。スリとか置引き、万引きといった軽い気持ちや、出来心でやってしまうものも入れるとかなり多くなると思いますが、基本的な心の痛みなどは、当事者は気付いていないのかもしれないかもしれません。

## 2 罪の意識

世の中には、軽い気持ちで犯してしまう罪の意識の低いものもあります。セクハラやパワハラ、そして子供のいじめなどがそれでしょう。何かこう書いていても心が詰まるというか、やるせない気持ちになっていきますが、日々、新聞やテレビのニュースになる犯罪の根本になっているのです。ですから、このようなことは心の贅肉ぜいじくというより、心にできた悪性の腫瘍しゅようと言ってもいいかもしれません。すなわち心の中にがんができたという表現が適切なのかもしれません。

それらに對してもう少し軽い、いわゆる贅肉程度のもものとして、悲しい、怒る、恨む、

## 吉村作治（よしむら・さくじ）

1943年東京生まれ。東日本国際大学学長・教授。早稲田大学名誉教授。工学博士（早大）。エジプト考古学者。1966年アジア初のエジプト調査隊を組織し、約半世紀にわたり発掘調査を継続。古代エジプト最古の大型木造船「第2の太陽の船」を発掘・復原するプロジェクトが進行中。2016年から大ピラミッド建造者クフ王の王墓探査計画を開始。またeラーニングによる新しい教育システムの制作と普及、日本の祭りのアーカイブに奮闘中。主な著書『吉村作治の古代エジプト講義録』（講談社）、『マンガでわかるイスラムvs.ユダヤ中東3000年の歴史』（CCCメディアハウス）、『人間の目利き アラブから学ぶ「人生の読み手」になる方法』（講談社）、『ひとのちから』（麗澤大学出版会）、『運命を味方にする生き方』（海竜社）、『エジプトに夢を掘る』（日本実業出版社）他多数。公式HP『吉村作治のエジプトピア』<http://www.egypt.co.jp>

## 人間力回復宣言

---

2017年3月27日 初版第1刷発行

著者 吉村作治

発行所 昌平鬘出版会

〒970-8023 福島県いわき市平鎌田字寿金沢37

tel. 0246 (21) 1662 fax. 0246 (41) 7006

発売所 論創社

〒101-0051 東京都千代田区神田神保町2-23 北井ビル

tel. 03 (3264) 5254 fax. 03 (3264) 5232 web. <http://www.ronso.co.jp/>

振替口座 00160-1-155266

印刷・製本／中央精版印刷 装幀／宗利淳一＋田中奈緒子

ISBN978-4-8460-1600-5 ©2017 SHOUHEIKOU Shuppankai, printed in Japan

落丁・乱丁本はお取り換えいたします。